

## 琵琶湖森林づくり事業のこれまでの実績

### ( ) 事業費

(単位:千円)

施策の展開(事業名)	18年度	19年度	20年度	21年度	4カ年実績 合計額
環境を重視した森林づくり	222,641	271,988	423,773 (341,698)	426,348 (329,478)	1,344,750 (1,165,805)
1 陽光差し込む健康な森林づくり事業	128,269	139,701	254,284 (172,209)	212,379 (115,509)	734,633 (555,688)
1 - 1 環境林整備事業	65,998	104,985	141,030 (115,435)	96,514 (62,144)	408,527 (348,562)
1 - 2 農地漁場水源確保森林整備事業			91,119 (34,639)	101,371 (38,871)	192,490 (73,510)
1 - 3 森林環境の調査研究	62,271	34,716	22,135	14,494	133,616
2 長寿の森奨励事業	9,964	34,238	40,176	40,288	124,666
3 森林を育む間伐材利用促進事業	5,427	8,657	30,180	54,450	98,714
3 - 1 地球温暖化防止対策間伐材利用拡大事業	5,427	8,657	12,580	21,450	48,114
3 - 2 間伐材搬出対策事業			17,600	33,000	50,600
4 里山リニューアル事業	78,981	89,392	99,133	119,231	386,737
県民協働による森林づくり	128,300	247,987	245,512	276,482	898,281
5 協働の森づくりの啓発事業	16,039	13,795	15,757	14,009	59,600
6 みんなの森づくり活動支援事業	31,598	36,521	32,467	35,613	136,199
6 - 1 県民参加の里山づくり事業 (里山協定林推進事業)	20,348	25,512	20,797	24,086	90,743
6 - 2 みんなで始めよう森づくり活動公募事業	6,124	7,741	8,130	8,335	30,330
6 - 3 流域森林づくり委員会推進事業	5,126	3,268	3,540	3,192	15,126
7 未来へつなぐ木の良さ体感事業	80,283	146,765	110,888	136,853	474,789
7 - 1 木の香る淡海の家推進事業	22,131	27,949	28,811	32,532	111,423
7 - 2 木製品利用促進事業	7,523	84,004	42,909	69,666	204,102
7 - 3 木の学習机整備事業	38,178	14,507	26,485	21,300	100,470
7 - 4 森の資源研究開発事業	7,449	15,305	9,321	9,993	42,068
7 - 5 「びわ湖材」産地証明事業	5,002	5,000	3,362	3,362	16,726
8 森林環境学習「やまのこ」事業	380	50,906	86,400	90,007	227,693
合 計	350,941	519,975	669,285 (587,210)	702,830 (605,960)	2,243,031 (2,064,086)

平成20年度からは、環境林整備事業および農地漁場水源確保森林整備事業で国費を取り入れており、事業費全体額を上段に、国費を除く琵琶湖森林づくり基金充当額を、下段( )書きで表示しています。

平成18、19年度実施しました「環境保全につなぐ間伐材製品利用促進事業」は、集計の都合上、「7-2木製品利用促進事業」に取りまとめて計上しております。

( ) 事業内容

環境を重視した森林づくりの取り組み

事業名 (事業費)	実施内容	事業量(4年間)
<b>1 陽光差し込む健康な森林づくり事業</b> ( 734,633千円 ) 「放置された人工林」を強度に間伐することによって、環境が豊かで生態系に富み、針葉樹と広葉樹が入り交じった多面的機能の高い森林「針広混交林(環境林)」へ誘導。また、「針広混交林(環境林)」の調査研究なども併せて実施。		
1 - 1 環境林整備事業 ( 408,527千円 ) ( H18' ~ H21' )	市町と森林組合、森林所有者との協定に基づき、40%以上の「強度間伐」を実施し「針広混交林(環境林)」になるよう誘導。	553ha
1 - 2 農地・漁場・水源確保森林整備事業 ( 192,490千円 ) ( H20' ~ H21' )	手入れ不足の人工林を対象にして、緊急かつ重点的に除間伐を実施し、水源かん養機能等の多面的機能の高い森林となるように導く。	678ha
1 - 3 森林環境の調査研究 ( 133,616千円 ) ( H18' ~ H21' )	県下のほぼ全域を対象とした森林現況調査。 強度間伐による下層植生の変化についての追跡調査。 森林の手入れによる水環境への影響についての調査・研究。	間伐マップ(12市町) 環境林植生経年調査 ほか
<b>2 長寿の森奨励事業</b> ( 124,666千円 ) ( H18' ~ H21' ) 成熟期を迎える森林を、手入れの行き届いた70～80年生の「長伐期林」に誘導することで、水源かん養機能の高い森林に誘導。		
	市町と森林所有者等との長伐期の施業と管理に関する協定に基づき実施される高齢級間伐等の保育作業の準備に必要な活動に対して支援。	4,029ha
<b>3 森林を育む間伐材利用促進事業</b> ( 98,714千円 ) 間伐材を搬出・利用することで、資源の循環と二酸化炭素の固定による地球温暖化防止に貢献。		
3 - 1 地球温暖化防止対策間伐材利用拡大事業 ( 48,114千円 ) ( H18' ~ H21' )	森林組合が森林所有者から間伐材を買い取りを行った場合、環境貢献価格と市場流通価格の差額を助成。	13,771m <sup>3</sup> (県内8森林組合)
3 - 2 間伐材搬出対策事業 ( 50,600千円 ) ( H20' ~ H21' )	間伐材の利用を促進するため、搬出のための簡易な間伐材搬出路作設を支援。	23,556m
<b>4 里山リニューアル事業</b> ( 386,737千円 ) ( H18' ~ H21' ) 荒廃している里山を手入れして、県民が親しみ利用できる場所に整備。		
	市町と森林所有者とで結ばれる協定に基づき、県民に広く開放することを条件に、枯損木等の除去や竹林の整備などの森林整備を支援。	597ha

## 県民協働による森林づくりの取り組み

事業名 (事業費)	実施内容	事業量(4年間)
5 協働の森づくりの啓発事業 ( 59,600千円 ) ( H18' ~ H21' )	森林の価値や琵琶湖森林づくり県民税の目的・用途を県民の皆様に説明するとともに、森林づくりへの参加を促し、森林づくりの意義や税制度への理解と関心を高める。  「びわ湖水源のもりづくり月間」(10月)を中心に、「協働の森づくり」について、各種媒体を通じた情報発信や、実際に森の手入れを体験していただくなど森林づくりへの参加機会の提供等。	・森づくり活動 延べ25回 (5,772人) ・ラジオCM放送(FM滋賀)、交通広告、県広報・HP掲載 等
6 みんなの森づくり活動支援事業 ( 136,199千円 ) 県民の皆様が森林づくりに積極的に参画いただくための場づくりや、地域の活動団体による森林づくりを支援。また、流域森林づくりのあり方について、県・市町等に提案するほか、主体的に活動を行う組織づくりを行うことによって、地域特性にあった森林づくりを支援。		
6 - 1 県民参加の里山づくり事業 (里山協定林推進事業) ( 90,743千円 ) ( H18' ~ H21' )	市町と森林所有者および里山保全グループとが協定を締結した里山(里山協定林)をフィールドに、計画から実行までを協働して継続的に行う保全活動を支援。	11協定地域
6 - 2 みんなで始めよう森づくり活動公募事業 ( 30,330千円 ) ( H18' ~ H21' )	森づくりや資源利用、森林環境学習や森林づくりの人材養成など地域のNPO等が行う活動を支援。	45団体を支援
6 - 3 流域森林づくり委員会推進事業 ( 15,126千円 ) ( H18' ~ H21' )	地域住民、森林所有者、森林組合、NPO等が、流域の森林づくりのあり方について議論し、自ら森林づくりに関わるとともに、県/市町等に対して提言等を行う「流域森林づくり委員会」の設置やその活動を支援。	6委員会設立 ・活動支援
7 未来へつなぐ木の良さ体感事業 ( 474,789千円 ) 木の温もりや良さを体感する機会を県民の皆様提供することで、滋賀の風土にあったびわ湖材を積極的に使うことを普及啓発。		
7 - 1 木の香る淡海の家推進事業 ( 111,423千円 ) ( H18' ~ H21' )	木材の地産地消を進めるため、県内で建設業を営んでいる大工さんや工務店の方に、一戸建ての住宅を新築時に、びわ湖材の使用量に応じて助成。	新築 250戸 耐震補強 3戸
7 - 2 木製品利用促進事業 ( 204,102千円 ) ( H18' ~ H21' )	公共性の高い公園やホールなどの施設や学校・保育園を対象に、木製品の設置や建物内装の木質を促進し、県民の皆さんが木に触れる機会を提供するとともに木の良さを普及・啓発。	延べ179箇所
7 - 3 木の学習机整備事業 ( 100,470千円 ) ( H18' ~ H21' )	県内の小中学校等に県産材の学習机や椅子の導入を支援することにより、子どもたちに森林の大切さや木の良さを啓発。	7,241セットの導入支援 (延べ学校数 高校3校、 中学校3校、 小学校19校 )
7 - 4 森の資源研究開発事業 ( 42,068千円 ) ( H18' ~ H21' )	森林資源や森林空間を活用する研究開発を支援。	延べ26団体を支援
7 - 5 「びわ湖材」産地証明事業 ( 16,726千円 ) ( H18' ~ H21' )	県産材であることを証明する制度を普及し、地球温暖化を防止する観点から輸送に伴うCO2排出の低減に貢献している木材であることを啓発。	34,070m <sup>3</sup> 認定 (産地証明数量 (一次発行量))
8 森林環境学習「やまのこ」事業 ( 227,693千円 ) ( H18' ~ H21' )	小学生を対象とする環境学習をすすめ、次代の森林を支える人材を育成。  次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるため、学校教育の一環として、県内の小学校4年生を対象に森林環境学習施設において体験型の学習を実施。	県内241校(延べ 34,278人)が参加